

SEI WORLD

住友電工グループニュースレター Vol.454

7

2015





SEI WORLD **7** 2015

住友電工グループニュースレター Vol.454

Contents



トップメッセージ

「17VISION」の中間見直し



特集

航空機に関する製品



中期経営計画「17VISION」

17VISION
目標値中間見直しについて



Latest Information

ステンレス鋼の
摩擦攪拌接合が可能に



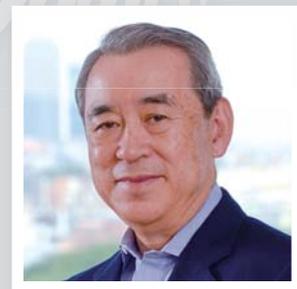
今月のグループ会社紹介

インドネシア共和国SUMIA社
PT.Sumiden Hardmetal Manufacturing Indonesia

TOP MESSAGE

「17VISION」の中間見直し

住友電気工業株式会社 社長 松本 正義



5月26日に、当社の中期経営計画である「17 VISION」(以下、17V)の中間見直しを発表致しました。

17Vは2013～2017年度の5カ年計画で、数値目標としては「売上高3兆円、営業利益1,800億円、ROA^{*1} 9%」を掲げておりました。しかし、その前の5カ年計画(12V)の時に、リーマンショック、超円高、東日本大震災など、一企業ではコントロールし得ない外部環境の大きな変化を経験した反省もあり、17Vについては当初から、立案後の環境変化などを考慮して中間でレビューすることにしておりました。

その結果、為替など外部環境の変化やここまでの業績推移なども勘案し、数値目標を「売上高3兆3,000億円、営業利益2,000億円、ROA 9%以上」と見直すとともに、新たにROE^{*2}を指標に加え2017年度に8%以上を目指すことと致しました。なお、17Vの基本

的な枠組み、すなわち「現領域の変革・伸長」、「融合領域への展開」、「新規領域への挑戦」などの成長戦略については変更しておりません。

新たに掲げた数値目標はいずれも高いハードルであり、容易に達成できるものではありません。しかし、「萬事入精」の精神でグループ全員がベクトルを合わせて一丸となり、それぞれの目の前の課題を一つ一つクリアしていけば、「新たな17V」実現、そして将来のあるべき姿「Glorious Excellent Company」への道筋が見えてくるものと信じております。

皆様にも、引き続きご支援ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※1 ROA: 当社では、ROAとして「投下資産営業利益率」という概念を使っております。

※2 ROE: 自己資本当期純利益率

航空機に関する

Supporting the aviation industry



✈️ 航空機機体



熱収縮チューブ Sumitube®

Sumitube®は、電線・ハーネスの結束、耐熱保護、絶縁保護などの幅広い用途に使用される熱収縮チューブです。航空機分野では使用部位や環境に応じて高い耐熱性（最高200℃）や耐薬品性（航空機油など）が求められます。そのため、ポリオレフィン、フッ素系ポリマー・エラストマーなどを主原料として、電子線架橋により、さらに耐熱・耐薬品を高めたSumitube®は被覆対象となるワイヤーやコネクタなどの部品の保護用に使用されています。

識別用製品

SUMITAG® / SUMIMARK®



SUMITAG® / SUMIMARK®は、航空機や鉄道車両に使用されるケーブルの識別に使用する印字システムです。高い安全性が要求される航空機ハーネスでは構成ワイヤーごとに識別が必要であり、またその識別材料にはSumitube®同様に耐熱性や耐薬品性が求められます。当社で開発した識別用印字システムと熱収縮チューブは高い信頼性をもとに、航空機メーカーに採用されています。

Sumitube® STS (Solder Termination Sleeves)

Sumitube® STSは電線接続用の部品の一つで、ワイヤー同士やワイヤーとコネクタなどを接続するとともに防水・機械的保護機能を有します。Sumitube® STSは優れた耐熱・耐寒性と品揃えの豊富さが認められ航空機ハーネス用接続部品として多くのお客さまから採用いただいています。

航空機用電線

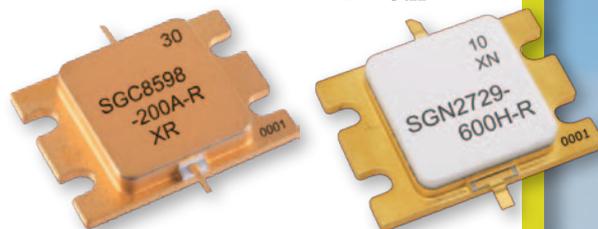
当社のワイヤーおよびケーブルは、航空機やヘリコプターの機内配線に幅広く使用されています。独自開発のフッ素樹脂絶縁と照射架橋技術によって、過酷な環境下でも高い耐久性と信頼性を誇り、大手航空機メーカーにも採用されています。



製品



GaN HEMT 製品



航空管制・気象レーダー・ 衛星通信用デバイス GaN HEMT

GaN HEMTは、高出力、広帯域、低消費電力の特徴を持つ窒化ガリウム (GaN) の化合物半導体デバイスで、当社は世界に先駆けて製品化しています。L帯・S帯・X帯*の周波数で航空無線、航法システム、GPS、航空管制レーダー、高解像度の気象レーダーなどに幅広く採用され、キーデバイスとなっています。今後も最先端のデバイス製品群を提供し、航空機の安全運航に貢献していきます。

※マイクロ波の周波数帯域：L帯は航空管制レーダーや衛星電話、S帯は移動体向け衛星放送や各種レーダー、X帯は高解像度の気象レーダーや地球観測衛星の合成開口レーダー (SAR) などで利用されています。

✈ レーダー・通信用装置

✈ 機械加工

フライス加工用工具 SEC-ウェーブラジアスミルRSX型

当社は、航空機の機体を製造する際に使用する切削工具も扱っています。航空機の機体に用いられるチタン合金を機械加工する場合、加工時の負荷の変動、工具への溶着*により工具刃先に異常な損傷が起こります。当社のRSX型カットは、低抵抗・低振動を実現するボディと溶着しにくい刃先材料の組み合わせで、当社従来品比で抵抗を4割、振動を5割低減でき、異常な損傷の発生を抑制し、チタン合金加工工程の改善に貢献しています。

※加工用工具の刃先に加工対象物が付着する現象。



穴あけ加工用工具 スミダイヤ®コートドリルSDC型

昨今、航空機の機体軽量化のために、CFRP*など従来のアルミニウム合金に替わる複合材料が多用されています。このCFRPの穴あけ加工には、刃先の摩耗が早期に進展しバリが発生しやすいという課題があります。当社のSDC型ドリルは、独自のダイヤモンドコーティングによる優れた切れ味と高い刃先強度と耐摩耗性により、バリの発生がない安定した穴あけ加工を実現します。

※鉄やアルミなどの金属材料よりも強度が高く、軽くて強い炭素繊維強化プラスチックのこと。Carbon Fiber Reinforced Plasticの略。



17VISION

目標値中間見直しについて

▶ 中期経営計画「17VISION」

当社グループは2013年5月に中期経営計画「17VISION」を定め、住友事業精神をゆるがぬ基礎とし、人材、モノづくり、財務の基盤の上に、マーケティング機能、グローバル・プレゼンス、トップ・テクノロジーを推進力として、モビリティ、エネルギー、コミュニケーションを中心とした現領域を変革・伸長させ、さらに融合領域への展開・新規領域への挑戦に取り組んできております。

▶ 中間見直しについて

当初「17VISION」策定時の中間目標である2015年度売上高2.6兆円、営業利益1,300億円を2014年度に前倒しで達成したことなどから、事業環境や為替環境などの状況を踏まえ、本年5月に「17VISION」の数値目標の見直しを行い、公表いたしました。

具体的には、2017年度売上高3.3兆円、営業利益2,000億円、ROA（投下資産営業利益率）9%以上を目標値として掲げました。また、新たな指標としてROEを追加し、2017年度8%以上の実現を目指します。

▶ 実現に向けて

引き続き5つの事業セグメントで構成される、現領域の事業の変革・伸長を継続するとともに、モビリティ、エネルギー、コミュニケーションの融合領域や、新規領域について、組織体制の整備や、必要な資源投入を進めてきており、今後取り組みを加速、収益の柱として育てていきます。



LATEST information

新製品情報

(株)アライドマテリアル

ステンレス鋼の摩擦攪拌接合が可能に

(株)アライドマテリアルは、日本アイ・ティ・エフ(株)、および東北大学大学院工学研究科材料システム工学専攻の佐藤 裕准教授、粉川 博之教授と共同研究を行い、オーステナイト系ステンレス鋼の摩擦攪拌接合(以下、FSW)を可能にする高寿命なタングステン系接合ツールの開発に成功しました。

本ツールは、高価な元素を使用しない低コストのタングステン合金に耐摩耗性に優れたセラミック被膜をコーティングすることで、ツールに右記のような特長を持たせ、現在最有力とされるツールよりも低価格を目指しながら、従来の低価格ツール材料に比べて高い耐久性と高寿命化を実現しました。

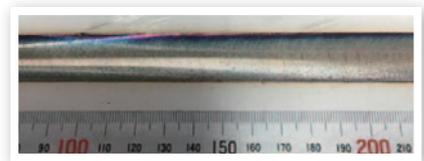
特長

- タングステンにセラミック粒子を分散させ、その種類や添加量を最適化して優れた高温強度、高い靱性、および高い耐熱衝撃性を実現。
- セラミック被膜の膜質と密着力を制御して高い耐摩耗性を実現。

鉄鋼の中でも最もFSWが困難であったオーステナイト系ステンレス鋼において、接合深さ4mmで10m以上の線接合ができることを確認しました。開発したタングステン系ツールは、ステンレス鋼の他、炭素鋼、高張力鋼、低合金鋼、そして銅合金などのFSWにも有効で、電力および化学プラント、鉄道車両、真空容器を使用する半導体製造装置などの産業分野への展開が期待されます。



開発した接合ツール



開発した接合ツールを用いたオーステナイト系ステンレス鋼の接合の例

受賞

光通信事業部、光通信研究所

光通信ネットワークの構築に欠かせない高品質な光ファイバの量産性に優れた製造法である「VAD法」が世界的に権威のあるIEEEマイルストーンに認定



5月21日に東京で開催された「IEEEマイルストーン贈呈式」

当社と日本電信電話(株)、古河電気工業(株)、および(株)フジクラの4社が共同で研究開発・普及促進した「高品質光ファイバ量産製法として用いられるVAD法(1977年-1983年)」^{*1}の功績が、世界規模での急速な光通信ネットワーク構築に貢献したとして、電気・電子・情報・通信の技術分野における世界最大の学会であるIEEE^{*2}より、世界的に権威のある「IEEEマイルストーン」に認定されました。

VAD法は現在、世界で最も多く採用されている光ファイバ量産法です。世界で生産されている通信用光ファイバの約60%は

VAD法を基本技術として製造されており、今日の情報通信社会の基盤である光通信ネットワーク構築に大きく貢献しています。

今後も世界をリードする技術を通じて、社会や産業、学術の発展に寄与していくとともに、安心、安全で豊かな社会の創造に貢献していきます。

■IEEEマイルストーンとは

IEEEにより、電気・電子・情報・通信分野における画期的な技術革新の中で、開発から25年以上にわたり国際的に高い評価を受けてきた技術革新の歴史的業績を称える表彰制度として1983年に設立されたものです。

過去の実績例では、19世紀における電話やエジソン研究所^{*3}、マルコーニの無線通信^{*4}など、近代化の基盤となった歴史的施設・技術や、20世紀では、テレビ、コンピュータ、インターネットなど情報通信を支える技術が認定されています。

- *1 高品質光ファイバ量産製法として用いられるVAD法(1977年-1983年) : 正式名[Vapor-phase Axial Deposition Method for Mass Production of High-quality Optical Fiber, 1977-1983]
VAD法: Vapor-phase Axial Deposition Method (気相軸付け法)
- *2 IEEE: IEEEは「アイ・トリプル・イー」と読み、Institute of Electrical and Electronics Engineersの略。
- *3 エジソン研究所: エジソンらが白熱電球、発電機、レコードなど数々の新技術を開発した研究所。
- *4 マルコーニの無線通信: 1895年にマルコーニが世界で初めて無線通信の実験に成功。無線通信の幕開けとなった。



IEEE より贈呈された記念の銘板

LATEST information

お知らせ

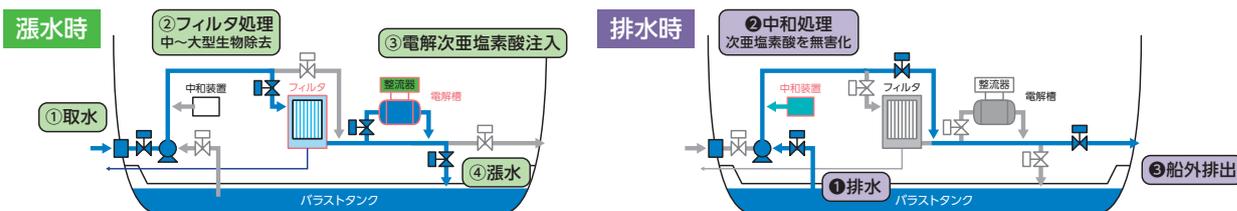
新規事業マーケティング部、新領域技術研究所

エコマリン®電解型バラスト水処理装置のIMO G9最終承認取得

当社と日立造船(株)は、電解型バラスト水処理装置「ECOMARINE®-EC」を共同開発してきましたが、このほど、IMO (International Maritime Organization、国際海事機関)が「活性物質を利用するバラスト水管理システム承認のための手順(G9)」で定める最終承認(FA)を取得しました。

両社は、2012年12月に「エコマリン技術研究組合」を設立し、当社のフィルタ技術と日立造船(株)が有する電解技術ならびに船用関連事業における知見を最大限に融合させ、環境への負荷が少ない低消費電力で高性能な電解型バラスト水処理装置「ECOMARINE®-EC」(定格処理量500m³/h)を開発してきました。今回のIMOの最終承認取得を受け、2016年度中に国土交通省の型式指定の取得を目指しています。

バラスト水フロー図



受賞

焼結製品事業部

(株)デンソーの仕入先総会において、「特別賞」を受賞

当社は、5月18日に開催された(株)デンソーの仕入先総会において、「特別賞」を受賞しました。(株)デンソーの加藤取締役社長から当社、常務取締役の牛島 望に、表彰盾が授与

されました。本受賞は、大型案件への生産対応力、成形体加工技術採用などの先進性が評価されたものです。今後もさらなる開発力・生産対応力向上に努めていきます。



受賞

(株)ジェイ・パワーシステムズ

「平成27年度文部科学大臣表彰・科学技術賞(開発部門)」を受賞 ～「超高圧長距離直流送電用架橋ポリエチレン電力ケーブルの開発」にて～



(株)ジェイ・パワーシステムズ(以下、JPS)の執行役員の片貝 昭史、技術本部の村田 義直が、4月15日に平成27年度文部科学大臣表彰において、「超高圧長距離直流送電用架橋ポリエチレン電力ケーブルの開発」にて、科学技術賞(開発部門)を受賞しました。本賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進などにおいて顕著な成果を収めた人について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる人の意欲の向上を図り、我が国の

科学技術水準の向上に寄与することを目的として設けられたものです。

本ケーブルは、北海道と本州をむすぶ連系送電線(±250kV)に採用され、2012年に海底部と陸上部を合わせて約45kmのケーブル布設工事を無事完了し、実用に供されています。本プロジェクトの完遂により、製造管理、品質検査、製造布設なども含めた、直流送電システムとしての実用化を達成しました。

※今回の受賞は、大木 義路氏(早稲田大学)、伊藤 康雄氏、佐々木 英隆氏(電源開発(株))との共同受賞となっております。

お知らせ

住友電工情報システム(株)

英語による「楽々Workflow®IIクラウドサービス」 お問い合わせ対応サービスを開始

住友電工情報システム(株)は、クラウド型ワークフローシステム「楽々Workflow®IIクラウドサービス」をご利用のお客さま向けに、英語によるお問い合わせ対応サービスと

路線検索サービスを4月より開始しました。「楽々Workflow®IIクラウドサービス」は、初期投資やインストール・メンテナンス作業が不要で、月額利用料のみですぐに利用で

きるクラウドサービスとして、2012年10月よりサービスを開始し、多数のお客さまに導入いただいています。今回、英語でのお問い合わせに対応することで、お客さまのグローバルな業務の迅速化、効率化に貢献します。なお、お問い合わせ対応サービスは専用のWebサイト(サポートサイト)上で提供し、お問い合わせの登録は24時間可能です。

展示会

住友電工情報システム(株)

「第2回 ワークスタイル変革EXPO」に出展

7月8日(水)から10日(金)の3日間、東京ビッグサイトで「第2回 ワークスタイル変革EXPO」が開催されます。企業にコスト削減・生産性向上・営業力強化が求められる中、「ワークスタイル変革」に高い注目が集まっています。本展示会はこの「ワークスタイル

変革」に特化した専門展です。住友電工情報システム(株)は、文書管理・共有システム「楽々 Document® Plus」、Webワークフローシステム「楽々Workflow®II」などをご紹介します。当社のブースへのご来場を心よりお待ちしております。

公式サイト: <http://www.ws-expo.jp/>
会期: 7月8日(水)~10日(金)
会場: 東京ビッグサイト
ブース番号: 西80-82
出展製品: 「楽々Workflow®II」、
「楽々Workflow®IIクラウド」、
「QuickSolution®」、
「楽々 Document® Plus」

展示会

営業企画部

「Electric MYANMAR 2015」に出展

8月13日(木)から15日(土)の3日間、ミャンマー・ヤンゴンにおいてミャンマー最大規模の電気・発電関連の国際展示会「Electric MYANMAR 2015」が開催されます。

当社は、超高压送配電用ケーブル、低中圧建設用ケーブルなどを出展します。

公式サイト: <http://myanmar-electric.com/> 会期: 8月13日(木)~15日(土)
会場: Tatmadaw Hall(ミャンマー・ヤンゴン) ブース番号: 4~5
出展製品: 超高压送配電用ケーブル、低中圧建設用ケーブル、鉄道車両・クレーン用接触電線、光ケーブルなど

展示会

電子ワイヤー事業部

「IDF15 San Francisco」に出展

8月18日(火)から20日(木)の3日間、米国・サンフランシスコで各分野の技術者が集まり、インテル製品やインテル製品を使った製品が一堂に集まる国際的な展示会「IDF15 San Francisco」が開催されます。当社は、Thunderboltケーブルなどを出展します。

公式サイト: <http://www.intel.com/content/www/us/en/intel-developer-forum-idf/san-francisco/2015/idf-2015-san-francisco.html>
会期: 8月18日(火)~20日(木) 会場: モスコニーウエスト コンベンションセンター
ブース番号: Thunderbolt community 出展製品: Thunderboltケーブルなど

●Thunderboltは、米国 Intel Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

お知らせ

広報部

第23回「一筆啓上賞」を住友グループが後援

住友グループ広報委員会では、今年も住友家初代住友 政友(1585~1652年)の出身地である福井県坂井市丸岡町の「公益財団法人 丸岡文化財団」が主催する日本一短い手紙のコンテスト「一筆啓上賞」を特別後援します。

今回のテーマは「うた」です。1~40文字までの短い書簡に込められた皆さまの日本一短い「うた」の手紙文を奮ってご応募ください。

締め切り: 2015年10月9日(金) (消印有効)
応募方法: 応募用紙または便せんサイズの用紙を使用し、必ず封書で応募してください。(用紙内に住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記)
封書1通につき1作品とし、応募点数に制限はありません。
宛先: 〒910-0298 福井県坂井市丸岡町 一筆啓上賞「うた」係
入賞作品発表: 2016年1月
公式サイト: <http://maruoka-fumi.jp/>



お知らせ

人事総務部

被災地応援マルシェ開催について

東日本大震災の復興支援の一環として、5月27日(水)と28日(木)に、当社と住友化学(株)との共催による被災地応援マルシェを、両社の大阪本社がある住友ビルで開催しました。

本マルシェは、今回が7回目の開催であり、青森県、岩手県、福島県、宮城県の物産(麺類、お菓子類、海産物加工品、ジュース、日本酒など)を販売し、大勢の方々が来訪され、盛況でした。



その他

人事総務部

小西選手がアジア陸上競技選手権大会で優勝!!

6月3日(水)から7日(日)に中国の武漢で開催された「第21回アジア陸上競技選手権大会」に、当社陸上競技部の小西 勇太選手が、男子400mハードル日本代表選手として出場し、49秒58で優勝、見事メダルを獲得しました。皆さまの温かいご声援、ありがとうございました。



今月の グループ 会社紹介

グローバルグループ Vol.39

SUMIA

PT.Sumiden Hardmetal Manufacturing Indonesia

私が紹介します



技術課
西 健太



経済成長が続き切削工具の現地需要も拡大している
インドネシアからのレポートです。



会社概要



名称: PT.Sumiden Hardmetal
Manufacturing Indonesia
設立年月: 2012年6月
事業内容: 超硬工具、ダイヤ焼結体工具、
CBN焼結体工具の設計・製造・
修理・販売
代表者: 田中 克享

住友電工
との
つながりは

PT.Sumiden Hardmetal Manufacturing Indonesia (SUMIA) は2012年6月に住友電工ハードメタル(株)の切削工具製造拠点としてインドネシアに設立されました。世界第4位の約2.5億人の人口を抱え、経済成長が続くインドネシアでは二輪車、四輪車の販売が急進しており、日系企業の進出増加とともに切削工具の現地需要も拡大しています。これに対し、地産地消を目的とした現地生産と再研磨サービスにて日本と同等品質のものを提供し、本市場でのシェア拡大をめざしています。

こんな
仕事を
しています

現地スタッフとのコミュニケーション向上に取り組み、 品質No.1をめざす

SUMIAはインドネシアの首都ジャカルタから東へ約60kmに位置するKIIIC (Karawang International Industrial City) 工業団地内にあり、切削工具の製造、販売をおこなっています。

私は技術担当として、まさに工場立ち上げ中の2013年6月に赴任しました。設備が通関で止められて搬入が遅れるなどのトラブルもありましたが、社内外の関係者の協力により、2013年7月から生産を開始しました。日本に負けない品質と確実な納期対応を基本概念に、お客さまから信頼される工場の体制構築に取り組んでいます。現地スタッフとの言葉の壁や、時間感覚、習慣の違いなどにより、スムーズに進まないことも多々ありますが、確実な意思疎通により1つずつ問題をクリアし、従業員一丸となって品質No.1工場をめざしたいと思えます。



SUMIAの社員

現地スタッフの紹介



Ery (エリイ)

こんにちは、エリイです。私は工場長として安全、品質、コスト、納期の管理をおこなっています。私の住友電工グループに対する印象は、長い歴史を持ち、多様な分野でビジネスを展開している大きなグループだということです。私は工場長としてSUMIAを高性能、高品質な工具を短納期でお客さまにお届けできる会社にしていきたくと考えています。



Dwi (ドゥウィ)

こんにちは、ドゥウィです。私は人事担当として、SUMIAの創業時からペイロール、税金の計算、立ち上げに來られる日本人の方々のVISA取得、現在の社員すべての採用活動に携わってきました。私は住友電工グループの社員になれたことを誇りに思っています。住友の事業精神に則り、今後もがんばっていきたくと思います。

現地レビュー

インフラ整備が進むなか歴史や文化があふれるジャカルタ

ジャカルタの交通渋滞

英国のカストロール社が実施した、世界78都市・地域を対象とした渋滞度調査の結果、ジャカルタがもっとも渋滞の深刻な都市となりました。一度渋滞すると最後はピタッと止まって動かなくなり、1時間かからない道のりが4時間かかることも。渋滞緩和策として地下鉄建設が始まりましたが、その工事規制の影響で車線が減少し、さらに渋滞に拍車をかけています。渋滞解消までの道のりはまだまだ遠いようです。



交通渋滞(高速道路)

インドネシア料理

インドネシア料理といえば辛いというイメージを持たれている方が多いかもしれませんが、私たちが想像するよりは辛さは控えめで、ナシゴレン(焼き飯)やミーゴレン(焼きそば)などは日本人にも親しみやすい料理です。ごはんを主食としておかずを添える、このスタイルは日本ともよく似ていることから、余計に親しみやすいのかもしれない。



ナシゴレン



ミーゴレン

ジャワ島の世界遺産

インドネシアの観光地と言えばバリ島が有名ですが、ジャカルタから約400km東のジョグジャカルタという町に、仏教遺跡のポロブドゥール遺跡、ヒンドゥー教遺跡のプランバナン遺跡があります。現在では世界一のイスラム教徒を抱える国ですが、昔はヒンドゥー教や仏教が大きな勢力を持っていた名残といえます。



ポロブドゥール遺跡



ポロブドゥール遺跡



プランバナン遺跡

住友電気工業株式会社

本社(大阪) 〒541-0041 大阪市中央区北浜4丁目5番33号(住友ビル) Tel.06-6220-4141 Fax.06-6222-6485
本社(東京) 〒107-8468 東京都港区元赤坂1丁目3番13号(赤坂センタービルディング) Tel.03-6406-2600 Fax.03-6406-2700
中部支社 〒461-0005 名古屋市東区東桜1丁目1番6号(住友商事名古屋ビル4階) Tel.052-963-2700 Fax.052-963-2818
北海道支店 〒060-0042 札幌市中央区大通西8丁目2番地(住友商事フカミヤ大通ビル3階) Tel.011-241-1375 Fax.011-281-4113
東北支店 〒980-0021 仙台市青葉区中央2丁目9番27号(プライムスクエア広瀬通9階) Tel.022-262-7540 Fax.022-262-7538
茨城支店 〒319-1414 茨城県日立市日高町5丁目1番1号 Tel.0294-44-7008 Fax.0294-44-7009
北陸支店(富山) 〒930-0846 富山市奥井町17番38号 Tel.076-405-1954 Fax.076-405-2451
北陸支店(金沢) 〒920-0853 金沢市本町2丁目15番1号(ポルテ金沢8階) Tel.076-264-3180 Fax.076-264-3193
中国支店 〒730-0031 広島市中区紙屋町1丁目3番2号(銀泉広島ビル8階) Tel.082-248-1791 Fax.082-249-3483
四国支店 〒760-0019 高松市サンポート2番1号(サンポートビジネススクエア20階) Tel.087-822-7272 Fax.087-823-2739
九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル10階) Tel.092-441-1791 Fax.092-473-7084
沖縄支店 〒900-0015 那覇市久茂地3丁目21番1号(國場ビル3階) Tel.098-866-3213 Fax.098-866-0277
名古屋事務所 〒451-6006 名古屋市中区牛島町6番1号(名古屋ルーセントタワー6階) Tel.052-589-1603 Fax.052-589-1588
豊田事業所 〒471-0855 豊田市柿本町2丁目41番地 Tel.0565-26-4105 Fax.0565-26-4158
大阪製作所 〒554-0024 大阪市此花区島屋1丁目1番3号 Tel.06-6466-5651 Fax.06-6463-7229
伊丹製作所 〒664-0016 伊丹市昆陽北1丁目1番1号 Tel.072-772-3300 Fax.072-772-2525
横浜製作所 〒244-8588 横浜市栄区田谷町1番地 Tel.045-853-7182 Fax.045-852-0597

<http://www.sei.co.jp/>(バックナンバーも掲載しています)

住友電工グループニュースレター 第454号 2015年7月発行 編集発行人/野田太郎